



柿崎智子さんの作品

ブレない仕事

コロナ感染症対策で緊張感の続く福祉現場は、職員のストレスも蓄積するばかりです。それぞれが気分転換を意識的にはかるにしても、世の中全体が毎日コロナの情報を流し続け否が応でも耳にし目にする状況では、逃れられません。そんな中で、自分の仕事をどのように捉え、実践していくかが今問われます。

旅行や飲食店が徐々にオープンにされていき、規制緩和が進んでいくにつれて気持ちも緩みがちなのは避けられません。それはそれで必要なことであり、これまで我慢をしいられてきた業種の方たちにとっては死活問題でもあり一日も早く平常通りにしたいのは当然のことと思います。そこで私たちはどうあればよいのか。

かいゆうとしては、利用者さんやご家族、職員の命と健康を第一に考えたとき、やはりまだまだ緩めるわけにはいかないと考えています。実際に周辺事業所等ではいくつか感染のおそれありとされる事例が発生し、幸いなことに大事には至っていませんが感染の恐れは常にあります。過剰な恐れは人を萎縮させ無用な緊張を強いてよくありませんが、しかし、

根拠のない解除もまた危険を招く恐れがあります。

手洗い、消毒等安全のための予防策は必ず行う。共同生活の場では食事や入浴等の身体接触は避けられません。そのための最低限の対策は手を抜かずにきちんと継続していくことが今だから大切です。また外出もできるだけ人ごみは避ける等の配慮も必要です。見えないものへの恐れは原発事故の時も同じでした。福島食品は忌み嫌われ風評被害を受け、将来が見えずに亡くなった方もいます。だから福島を支援する人々は、「福島のものを食べない」ではなく測って食べる道を選びました。

私たちは、医学的対策だけでなく、むしろそれは最低限当然のこととして行う一方で、人が生きる意味や希望を、今だからこそブレずに持つことが求められているのではないのでしょうか。今だからこそ人間はまずは生きているだけで価値があることをかみしめたいと思います。しょうがいしゃに学ぶのは今だからこそであり、しょうがいしゃが生きられる社会は誰もが生きられる社会です。そういう社会を目指して日々の仕事があることを忘れずにいたいものです。(理事長 遠藤良子)

相談支援エブシロン

Tel 042-505-7021 Fax 042-505-7669

動く小さなストライクゾーン

友人のケアマネさんから聞いた話。新規に受け持つことになった利用者さんの引継ぎ会議の席で、病院の理学療法士さんがキーパーソンとなるご家族のことを、「ストライクゾーンの小さな人です。しかも動きます」と説明したそうだ。否定的なトーンは全くなく、ご家族と付き合う際のコツを伝授するトレーナーのような感じで。そして、その説明はその後とても役に立ったという。

ケアマネさんがご家族から、ちょっとそれは理不尽ではないかと思うような批判や怒りを向けられても、「外れてしまったか」となんだか納得。気持ちに余裕が持て、自己弁護をしたい気持ちも不思議と湧かないので、落ち着いてやりとりができる。結果、一つ一つでこじれることがなく、時々怒られることはあっても何かあればご家族から連絡がきて、それ

に素早く対応するという良好な関係が続いているそう。

わたしにもこの話はすごく参考になった。もしその理学療法士さんが苦々しい口調で話していたら、会議自体が違う流れになったかもしれない。そういうのはよくあることで、関係者が口々に「家族の理不尽な態度」「それにより困った体験」を語り出し、「あの家族には気をつけないとね」というような雰囲気になる。あるいは、「そんなことないですよ（あなたのほうに問題があるのでは）」と語り始める人も出てきたりすると支援者間に分断が生じ、どうまとめればいいのか進行役がオロオロし、どちらの立場の人も釈然としない気持ちになる。でもその引継ぎ会議では理学療法士さんが淡々とく家族との関係で起きてきた、ストライクゾーンが小さいし、動くこともあるという現象を語ったから、ケアマネさんも素直にそのままを受け止めることができたのだろう。「人」と「問題」を分けて語る北海道浦河町べてるの家発祥の当事者研究に通じるものがあると感じ、そのような語り方をわたしも見習いたいものだった。（白川）



居宅介護等事業・訪問介護事業 **くじらハウス**
短期入所 **おにぎり**

Tel 042-505-7034
Fax 042-505-7035



自分を見つめなおす

皆様こんにちは！この世の中の状況で、ステイホームと言われる【おうち時間】が増えましたね。自分は今までは、休みの日などは外に遊びに行ったりするのが好きだったので、時間と元気があれば、なるべく外に出歩いていました。ところが、このコロナウイルスの影響により、外出制限がかかってしまい、家にいる時間が圧倒的に多くなり、はじめは映画観賞やSNSを見漁る日々を過ごしていました。直近だと「天使のくれた時間」（ニコラス・ケイジ主演。2000年）を見ました。

しかしそのうち、このグータラ生活を、どうにかしないといけない、もっと有意義に時間を使わないと、と自分に投資するという意味で読書を始めました。ジャンルは小説、物語以外、エッセイ本、掃除、収納などに関する本、ビジネス本などなどです。特に今ハマっているのは、お金にまつわる本です。税金の仕組みだったり、ふるさと納税など簡単そうで

意外と知らないことなどを勉強中です。ペースは様々ですが、最低月に1冊は読むようにしています。映画鑑賞や、SNSなどの閲覧は続けていますが、読書に集中できるように、見る時間を制限するなど工夫しています。他にも少しずつですが、断捨離などを始めました。今はテレビを捨ててプロジェクターを買うつもりです！

このように、このステイホームのおかげで自分を見つめなおし、生活を見つめなおすことでさらによりよい暮らしができるよう、これからも行動していきたいと思います。

最後に、本や他にも、なんでもいいので、おすすめの物がありましたらどんな方法でも良いので、くじらハウス相馬まで教えてください！連絡たくさん待っています。（相馬）



誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙（そら）Tel/Fax 042-843-0443

大きな松ぼっくりでクリスマスツリー

私の実家の裏道を、ずーっと登って行くと、静岡大学の野球のグラウンドがある。もっと進むとテニスコート、サッカー場があり、テニスコートの脇道に、一本だけ松の木。大きな松ぼっくりがなり、下にはいっぱい落ちていて、これが噂の、おばあちゃん（私の母94才。ついでに私よりマスクを作るの上手）が言っていた松の木かあと思い、うれしくなり、取り放題。楽しく時間も忘れ、一緒にいた夫は「これをどうするつもり？」と言いながらも楽しそう。まだ新鮮な松ぼっくり。表面はチクチクする。大きな袋を3つさげ、帰りは大学の正門から脱出。守衛さんとは目を合わさず早歩き。実家に戻り、「こ

んなにいっぱいどうするの?!全部、国立に持って帰ってね」と言われ、国立に持ち帰り、さて、どうしよう?大きな松ぼっくりさんは宙にやって来ました!利用者さんと、ステキなクリスマスツリーを作ります。見に来てね。(岡野)



手前の小さいのがよく見かける大きさ。11/7に大きな松ぼっくりでクリスマスツリーを作るよ!

放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661

**大切な日常
戻りますように**

くじらっこでは、3月から子どもたちの学校が休校となり、急遽、長期休暇中と同じ午前中からの受け入れ体制となりました。3月から休校なのに、連絡がきたのが、3月に入る数日前。そこから慌ただしくいろいろ動き始めましたが、いつ学校が再開するのかもわからないまま、日々は過ぎ、6月に再開した後も、しばらくはイレギュラー対応に追われました。9月になり、やっと通常運転に入りました。くじらっこでのコロナ対策としては、一番に「密にならないようにする」ことから考え始めました。

<くじらっこ主な取り組み>

- ・保護者の方々が自粛にご協力くださり、1日の利用人数も普段より減らしての活動となりました。
 - ・受入時間を1時間短縮し、通常17時までのところを16時までの時間としました。
 - ・入口ドアは、常に開放し、虫よけカーテンを設置しました。
 - ・入口前や、くじらっこ裏手に、ソファやイスを出してテラスを作り、室内での密を分散させました。
- このテラスですが、4月、5月と心地いい季節だったので、子どもたちも気持ちよさそうに過ごしていました!
- ・昼食、おやつの時などは、向かい合わずに横一列となって食べました。

- ・子どもたちにもわかりやすいように、コロナ関連や手洗い等の掲示物のレイアウトの見直しをしました。
- ・手洗い、アルコール除菌、検温などの徹底等、新しい情報が入る度に取り組んでいます。

何より、保護者のみなさまが一番大変だったと思います。頑張ってくれた利用者の子供たち、ご協力頂きました保護者のみなさまには、本当に感謝でいっぱいです。それぞれの大切な日常が戻ってきますように★アマビエも忘れずに★(大関)



Group Home

ミラハウス

最大の自慢

今年2月に新型コロナウイルスの感染が始まってからというもの、色んなことが変わりました。入居者の皆さんは旅行、外出、プールなどの余暇活動がことごとく中止、縮小、自粛。通所先の営業形態が変わって不規則な生活を強いられている方もいます。我々スタッフも、そういった生活に合わせた不規則な勤務体制や感染予防対策で増えた業務負担や日々の緊張の中で、疲弊していく一方です。本当に「一日も早く今までの日常を取り戻したい」と願うばかりです。

このコロナ禍の中では、どうしてもグループホー

ム内で過ごす時間が多くなってしまいます。グループホームのリビングに、5人の入居者が集まっている時間が沢山あります。こんな中でも入居者の皆さんは、イライラすることもなく、きっと溜まっているであろうストレスを、誰かにぶつけるようなこともなく、リビングでニコニコして過ごしてくれています。むしろ5人で一緒にいる時間が増えたことを、喜んでいるように感じる時もあります。この「5人の仲の良さ」がミラハウスの最大の自慢でもあり、我々スタッフの唯一の救いにもなっている今日この頃です。(中村)



来歩ハウス ひとり山へ

冬到来、寒い季節ですね。今年のはんびり過ごしています。ロードバイクで高尾山口駅まで行って高尾山を散策したくらいですかね。山奥ほどではなくても自然に囲まれたところの空気が自分は好きな

と、人がいると気を遣うので、山とかは1人で出かけています。気が向いたときに体を動かしているので、元気かわかりませんが、可もなく不可もなくで普通に過ごせているので、とりあえず、このまま無事に健康で年を越せればと思っています。今年も残り僅かですが今まで通り宜しくお願いします。(高木)

メゾン・ド・歩人 いつにも増して

歩人の年間の予定は、年始は来歩さんと合同の新年会、春はいちご狩り、お花見、夏の一泊旅行、秋のBBQ、冬のイルミネーション&クリスマス会、雪遊び、そして年末になり新年会…と、今思うとイベントに追われて1年が過ぎていくような、そんな日常でした。

今年は、歩人のイベントは新年会以降中止、毎日の生活も変わり、当初、もちろん不安でした。何も出来ないじゃん!!と。それより、皆がこの非日常についてきてくれ

るのか?と、毎日予定の確認をしていたNさんは戸惑いを隠せず、自粛でお休みしている時「ポンポン(お医者さん)?」と通院だと思ってしまったり、大好きな電車でメンを食べに行くヘルパーさんとの外出もなくなり、どうなるのかな?ストレスでどうにかなってしまうのでは?と心配していましたが、「でんしゃはコロナ終わってから。」と我慢してくれました。

そんな中、うれしいこともありました。Mさんは新しい通所先を見つけて移り、週2回しか通所出来なかった日々から週5日、時には土曜日でも通所できるようになり自分の居場所を見つけることが出来ました。ほとんどお休みもせず、元気に通っています。Tさんはこの折に迷いの気



持ちが少し整理できた様子、新しい生活を始めようとしています。Kさんは先日還暦を迎えました。ささやかながら還暦のお祝いをし、リビングで生活するKさんに歩人のメンテナンスとして、ささやかながらパーソナルスペースを設置しました。

歩人は、いつにも増してあつという間に1年が過ぎてしまいそうです。皆の柔軟な対応に感謝するばかりです。グループホームの中にいる時間は、いつもより断然多いはずですが、メンバー1人ひとりと向き合う時間がその分増えたためなのか、それなりに充実しています。全員での外出が難しいのはしばらく続きそうですね。この機会に生活の中での楽しみ方を、もう少し模索できればと思います。(小野)



はじめの一步ハウス 楽しいひととき



皆さま、いかがお過ごしでしょうか？コロナコロナでネガティブになってはいませんか？コロナのせいで、外に行くにも出かけられない。楽しみが減った。はい、事実だと思います。でもですね、そんな状況になればなるほど人ってできない中で、何ができるのかを考えるんですよね。あれはダメだけど、これならば、ここまでならと考えを巡らすことは、コロナの前と後で、岩谷は多くなった様に思います。皆さんもそうではありませんか？

一歩の中でもイベント等が縮小される中で、何か楽しいことはできないかを、利用者さんを交えて話

し合い、行っています。

そんな一歩での楽しいひと時を皆さまにもお届けしますね。(岩谷)



とれいる 1つのチームに

今年は、待ちに待ったオリンピックイヤーで、日本全体が期待と活気にあふれている矢先、聞きなれないウイルスが流行していると報道され、それまでの生活が一変して、自粛生活に変わってしまいました。グループホームでは、普段から感染症対策はしているものの、未知のウイルスへの恐怖から、ただただじっと勢力が収まるのを待つことしかできませんでした。入居者の方々も、最初は通所先を休み、グループホーム内で自粛することに、いら立ちや不

安を持っていましたが、段々と、その生活にも慣れ、大きな体調の変化もなく過ごせています。今年は梅雨の長雨、猛暑と、ただでさえ外出を控えたいような気候が続いていたのも幸いでした。今回のようなことが起こり、今まで災害と言えれば地震、火災、水害などでしたが、防疫対策も入れて考える必要性が加わり、備蓄品の項目も変わってくるでしょう。まだまだ油断は一切できる状況ではありませんが、入居者、家族とスタッフが、1つのチームになって乗り切っていきたいと考えています。(長田)



すうえる 悔いのないよう

コロナが世に出回る前は、入居者さんもスタッフも、今までの生活が当たり前だと思っていました。入居者さんが作業所に毎日、朝から夕方まで1日通うこと。プライベートでは友達と会って外でお酒を嗜んだり、スポーツをしてハイタッチなんかも。他にもアイドルのコンサートや握手会、ディズニーランドやディズニーシー等。そんな、いろいろなことが、コロナで制限されました。

しかし、マイナスなことばかりではありませんでした。例えば入居者さんの習い事です。コロナの影響で通えなくなり、リモートで行うという初の試みがありました。スタッフは、リモートでできるのか不安だったのに、いざ、やるとなると、本人は何の

混乱もなく、初めてではないような様子で行うことができました。他にも作業所の午前のみの通所、自粛などがありましたが、その都度、理解してくれ、彼らの成長を感じました。

世の中も「with コロナ」で、いろいろなことが変わりました。アイドルの握手会はリモートでのお話会、コンサートもリモート配信、ディズニーランド&シーは、1日の入場者数の制限、会社ではリモートでの会議等、新たな時代の幕明けだなど、この頃感じています。最近では、今の時代のやり方を理解し、適応していかなければと、つくづく思います。

入居者の皆さんは、いち早く理解し、ルールの中で自分なりのやり方で今を生活しています。自分も入居者の皆さんに遅れを取らないよう、新しい生活に慣れ、未来に「あの時は大変だったけど楽しく生きたよね」と笑い合えるよう、悔いのないように今を生きていきたいと思っています。(松原)

音楽の広場 秋スペシャル

10/10 くにたち市民芸術小ホール

当日は、あいにくの雨でしたが、そんな中、来場した方々にとっては、その雨が幸いでもありました。参加者が一度に沢山来なかったため、受付が混雑までいくことはありませんでした。そして、ロビーの休憩スペースを使わせて頂けたこともあり、開場の前に来た人が、間を開けて並ぶことができました。入口に温感センサーモニターがあり、検温なくとも体温を確認できるようになっていました。会場に入って席に着くまで、やはり緊張した空気が張り詰めています。いつもに増してお手伝いのボランティアさんたちは、気配りに余念がありません。

受付を済ませると、案内係の方が席に案内してくれました。客席は、きちんとソーシャルディスタンスを保っていましたが、家族同士、利用者さんとヘルパーが、隣り合って座っている組もありました。車椅子の方のためには、前の方に間隔をあけて椅子が設置してありました。

コンサートが始まると、いつもなら席を立ち、色々な方へ、アピールをする参加者の皆さんですが、ただならぬ空気を感じ取っているのか、きちんと着席。観客参加の楽器を鳴らす場面も、普段なら持参した楽器や配られた缶を勢いよく鳴らしますが、



この日は勢い余って立ち上がってしまう利用者さんはいませんでした。

ステージ上の出演者の皆さんも、ソーシャルディスタンスを保ちながらセッション。今回は、可愛いゲストが出演されました。いつものがやがやムードもよいですが、このまったりした感じも、皆さんにはよかった印象を受けました。

受付では「やること(コンサートを開催すること)が偉いよ！」と、諭吉さんが入る想定になってない寄付金箱に、ご寄付くださったお客様。どんな形でも続けることが強みになること。改めて感じます。「楽しむ」ことの種類や質もこれから変わっていくのかもしれないですが、五日制の会は不滅であって欲しいと願うばかりです。(歩人 小野)



くにたち五日制の会



わいわいスポーツ 体操動画 見た? 制作秘話

コロナウイルスの関係で、活動ができなかった時期もありましたが、工夫をしながら活動を再開しています♪さて!今回、ご紹介するのは「五日制のFacebookを見れば、お家時間で、わいわいスポーツや音楽の広場に参加できますよ~」ということ。Facebookをやってなくても大丈夫。ネットで「五日制 国立市」などと検索していただければ、五日制のFacebookを見ることができます。

6月の、あの大変な時期に、会えない中でも五日制の会の活動を通して、どうにか、みんなとつながりたいと願って動画を製作しました。わいわいスポーツでは、お家でできる体操を載せています。音楽の広場では、紙芝居が見られますよ♪

では、ここで、わいわいスポーツの動画を作成した時の裏話を、家村講師の妻の目線からお話します(笑)。6月のあの頃、リモート



やYouTubeが注目されていましたね。そんな時に、ついに俺にも動画のオファーがきたかと意気込んでいるようでした(^^)。すぐさま体育仲間である(彼の実の)お姉さんに連絡して、ふたりで夜な夜な、どんな動画にしようかと電話をしていま



した。そして、家の中で練習、練習!!はじめは邪魔ばかりしていた息子たちも、だんだん隣で体操をするように。「この子たちが集中できるような動画になれば、成功だね」と、わくわくしながら撮影に向かいました。当日は、休日のくじら工房をお借りして撮影。

くじら工房スタッフの私(嫁)は、鍵を明け、消毒をした後、一緒に来ていた息子たちが部屋を汚してはいけないので、中には入らず外で待機していました。つまり、脚立にカメラを設置した後は、講師と演者の2人だけで撮影を行っていたのです!そんなわけで、逆光だったり、開脚ストレッチで頭を下げると写らなくなっていたり…。突っ込みポイントはありますが、編集してくれたボランティアさん(旭人さん)の技術もあって、なかなかいい動画に仕上がったのではないかな~と思います!目の前にみんながいないけど、想像しながら笑顔を作って取り組む旦那と義姉の健気な姿も、私的には見所です(笑)。今では活動も無事に再開していますが、こちらも併せてチェックしてみてください~☆(くじら工房 家村)

音楽の広場の紙芝居動画も見てね!



紙芝居(陽子さん作)

工房では、利用者みんなによる様々な生産品を、店舗やイベントなどで販売してきましたが、ここに来て、生産品の販売について、試行錯誤する機会が多く、作品に対して新しい価値観が生まれました。コロナのため、今年は、いろいろなイベントが中止になり、生産品を販売する機会が減ってしまいました。生産品の売り上げは、みんなのボーナスに影響するので、どうか工夫しなくては…、という思いがきっかけでした。

まずは、マスクを工房前で無人販売しました。マスク不足の時期だったので、地域の方に、とても喜ばれました。布の寄付も沢山いただき、ありがたかったです。

それから、ふきんの刺繍はカタログを作成し、ご家庭や宙に配布しました。こちらも大好評♪ 現在、お客様にお待ちいただきながら、心を込めて制作しているところです。今後は身内に留まらず、地域の方へも届くような仕組みを作りたいと思っています。

また、アトリエ講師のあつこさんの紹介で、川越

で行われた展覧会に、みんなの作品を展示しました。この展覧会では、販売も行いました。売り上げの分配は、あらかじめ、作家にいくら、みんなへの振り分けにいくら…、とメンバーと相談して決めました。作品は、これまで挑戦したことがない値段設定で出品しましたが、多くの方が購入してくださいました。これまで、のびのびと制作することを大切にしてきましたが、今回、生産品を地域の方々に見てもらう機会をどう作ろうかと考えたことで、誰かに喜んでもらえる作品を作ることを重視するようになりました。もちろん、これまでのように、自由な作品作りを基本としていきます。(家村)



「アウトサイダーアート Selection vol.1」
10/7～11 川越のギャラリーすーじぐわーにて

* 今日一品 手こね寿司

材料

- かつお(刺身用) 200g前後
- 米 2合
- 青じそ 5枚
- しょうが 20g
- きざみ海苔 適宜
- つけだれ
 - しょう油 大さじ2.5
 - 砂糖 大さじ1
- すし酢
 - 酢 大さじ3
 - 砂糖 大さじ2
 - 塩 小さじ1/2



三重県の名物

秋は魚の美味しい季節。さんま、酒、サバ、太刀魚、そして戻りかつお。かつおには日本全国、様々な郷土料理があります。かつおのたたき(高知)、揚げびたし(福島)、ガワ(静岡)、そして三重県の手こね寿司。今回は、この、手こね寿司を当地のレシピで紹介します。



献立メモ

かつおの脂肪分は、血中のコレステロールを抑え、中性脂肪を定価させるEPA、DHAが多く含まれる他、ビタミンB群、鉄分も豊富に含まれています。

レシピ作成：佐藤公子

作り方

- ①出汁は煮干しでとっておく。
- ②普通にご飯を炊き、熱いうちにすし酢と合わせてすし飯にする。
- ③つけだれを火にかけ、沸騰したらすぐ火を消して冷ましたものに、1cmくらいに切ったかつおを5～10分浸ける。
- ④青じそ、しょうがを洗い、千切りにする。
- ⑤すし飯に、②のかつおをのせ、③を散らす。

日曜夜の楽しみは…

日曜日の夜のテレビ番組で、楽しみにしている(た)のが2つあります。1つは9月で最終回を迎えた「半沢直樹」、もう1つは今年の大河ドラマ、三日天下の代名詞である明智光秀の生涯を描いた「麒麟がくる」です。「半沢直樹」は登場人物の役者の熱演と倍返しのフレーズでも有名 deth! 今年の流行語大賞にノミネートされるかもしれません。一方、「麒麟がくる」ですが、放送開始前に、帰蝶役の女優の不祥事で交替、放送開始時期の遅れ、さらには物語が中盤に差しかったところで新型コロナウイルスの感染拡大による放送中断など、楽しみに水を差された格好になりました。主な舞台である岐阜県も、通常なら大河ドラマによる観光ブームになっていたかもしれないですが、コロナの自粛ムードにより、恩恵をあまり受けられていないようです。

ところで、明智光秀の生地は美濃国の明智城(岐阜県可児市)が有力な説とされています。その明智城跡から木曾川を挟んで川向うに実家がある私としては、郷土の悲運なヒーローが、どんな風に描かれるか放送前から楽しみにしていました。NHKによると「麒麟がくる」の原作は存在せず、完全オリジナル作品だそうです。浅学菲才の私は当初、首の長いあのキリンが、出てくるのかと思いましたが、この麒麟とは、中国の想像上の動物で、優れた聖人、王が出現する前に現れるとされています。戦国時代の人々が、戦争や飢餓に苦しみ、平和と安定をもたらす英雄の出現を願っていたことが、このタイトルに込められていると自分なりに解釈しました。

また、光秀が信長を討った理由は諸説あり、信長の仕打ちに耐えかねた怨恨説や野望説が有力ですが、信長が天下統一を果たした場合、比叡山焼き討

ちの例のような恐怖政治が行われることを懸念したために行ったという説もあります。もし本能寺の変がなかったら秀吉、徳川の時代もなかった可能性もあり、安定した時代が来なかったかも知れません。結局、戦乱の世を終わらせた人物が光秀であり麒麟であったのか、あるいは秀吉、家康が麒麟であったのか、このドラマの終盤に、どう描かれていくのか楽しみにしています。

余談ですが、本能寺の変で信長と共に討死した魔性の美少年として有名な森 蘭丸ですが、明智城址近く(可児市内)に、蘭丸が居城とした美濃金山城址があります。今は史跡、公園(キリンはいませんが)として、市民の憩いの場所になっています。コロナが落ち着いたら是非 Go To MINOJI へ。

最後に、今のコロナ禍をくい止める「麒麟」がアビガンなのか有効なワクチンなのか、わかりませんが、早く出現し、社会活動が普通に出来ることを切に願う今日この頃です。(山田)



★職員の入退職★

入職
大坪 明日香 2020. 10. 1
退職
大関 悠太 2020. 10. 31



facebook

見てね!



ホームページ

編集後記 ◆ 今年、あらゆるイベントが中止や延期、もしくは規模を縮小したり、運営方法が変わったりして、今までは随分違ってしまっただけで、これは一時的なこと、いつかは元に戻るのではないかと、早く戻って欲しい、と願っている人は多いと思う。でも、今年五月にスパーシティ構想を実現するための「国家戦略特区法」が成立したことを知っている人は、そう多くはないのでは? 「スパーシティ」とは、医療、教育などあらゆる分野の先端技術を組み合わせ、その相乗効果で住みやすいまちをめざし、自動運転、キャッシュレス決済、自動配送、遠隔診療などのサービスを提供するものだぞつだ。なんだかいいことづくめのように思える。がしかし、これって私たちの暮らしに突然やってきた「新しい生活様式」の上に成り立つものではないだろうか? そして、その実現のためには、5Gが必要となり…。コロナ禍の今、着々とその準備が進められている。私たちが気づかないうちに。だからもう、もどかに戻ることにはできないのではないかと思うのは考え過ぎ?(な)